

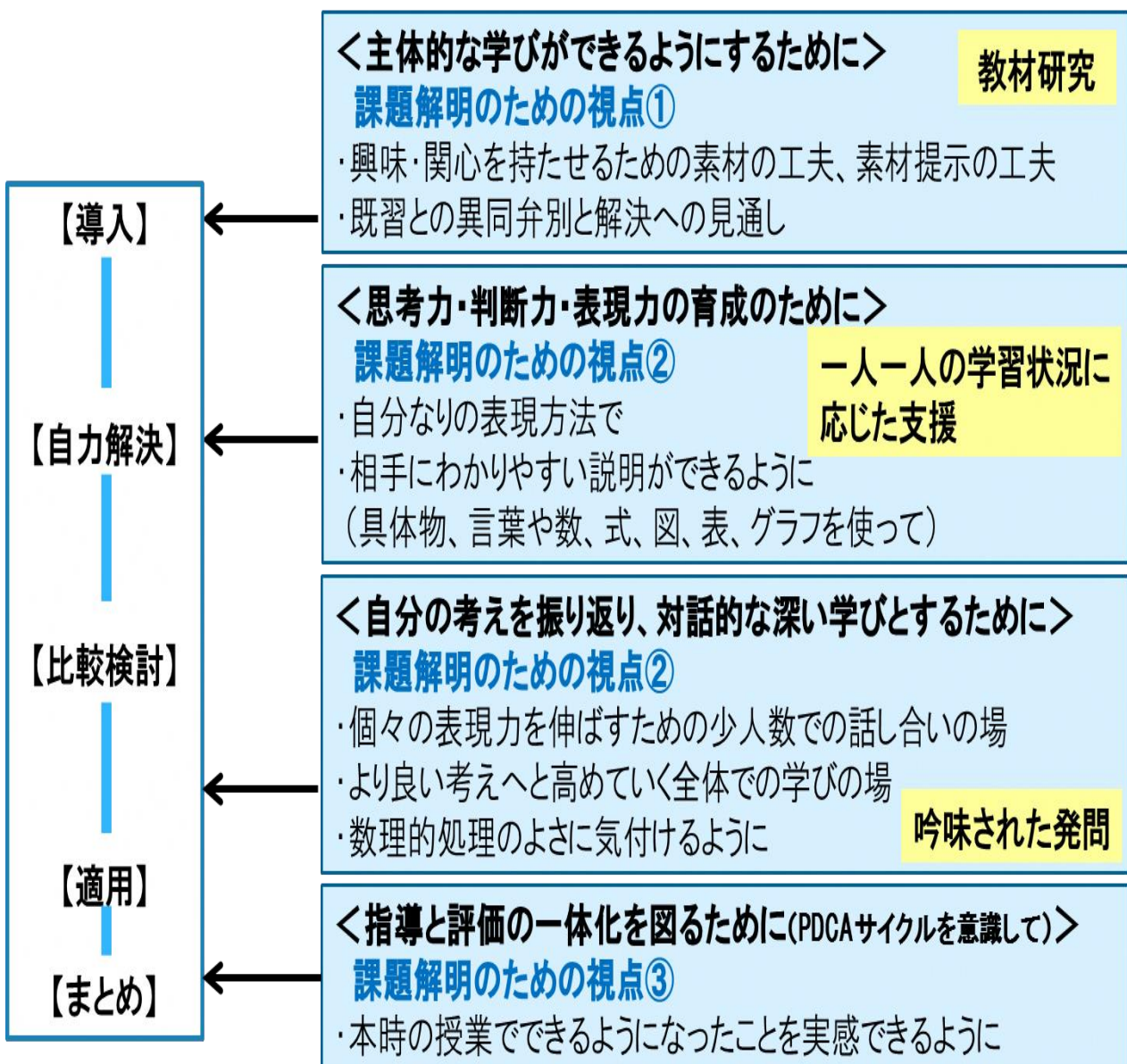
児童生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業の創造

～「主体的・対話的で深い学び」の実現～

千葉市教育センター

各学校では、「わかる授業」の推進に向け、下記の課題解明のための視点①、②、③から、授業改善に取り組んでいただいているところです。教育委員会では、これらの授業改善がより一層進められるよう、授業で大切にしたいこと・実践のポイントをまとめました。本資料を活用し、児童生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりに取り組んでください。


【学習過程と課題解明の視点（算数科の学習を例として）】



課題解明のための視点①

「主体的な学びができるようにするために」

児童生徒に身に付けさせたいことを明らかにし、児童生徒の実態と合わせて、素材・素材提示の工夫をします。

 学ぶ必然性・学ぶ大切さを実感できる素材であることが大切です。対話の中で問いを焦点化し、本時に学習することを明確にします。

あれ、なぜだろう？
解決してみたい！




今日勉強することは
○○だ。



【チェックポイント】

- 教材研究を通して、学ぶ必然性・学びたいという意欲が持てるように素材や素材提示の工夫を工夫した
- 前時までの学習（ノート・発言等）から、一人一人の実態を把握した
- 一人一人のつまずきに対して、自分の力で乗り越えられるような支援を想定した
- 焦点化された問いは学習問題として、板書して全員に示した

既習の学習を振り返り、一人一人が見通しを持てるようにします。

 一人一人が何をすればよいのか見通しを持てるようにすることが大切です。そのためには、常に既習の学習や経験と結び付けて考え、自分なりの予想を持てるように習慣づけていくことが必要です。

前に習ったあの考
え方が使えそうだ。



○○の方法で、予想
を確かめられそう！




【チェックポイント】

- 既習の資料等、思考するもとになるものを各自が使えるように用意した
- 既習と結び付けた見通しの発言を促した
- 答えの見通しと同時に、どのように調べていくか方法の見通しも持たせた
- 児童の表情、ノートから見通しを持っていない子を把握し、想定しておいた支援を行った

課題解明のための視点②

「思考力・判断力・表現力育成のために」

児童生徒が自分なりの方法で解決できるようにします。

-  児童生徒が解決するための時間を十分に確保することが大切です。たとえ答えが出なくても、児童生徒自身がどこまでわかり、何がわからないか自分なりにはっきりさせておくことが必要です。

予想した方法で
やってみよう。




【チェックポイント】

- 見通しにしたがって、主体的に活動できるように支援した
- 多くの児童生徒が自力解決できないときは、全体の場で再度見通しを持てるようにした
- 赤ペンで机間指導を行いながら、児童の実態をつかんだ(形成的評価)
- 予想されるつまずきに応じた具体物やヒントを用意する等、具体的な支援を行った
- 進んでいる児童生徒をより伸ばせるような手立てを行った
- 話し合いをより深められるように、比較検討の構想をたてた

ここまではわかる
けれど、続きは…?



自分のやり方を相手にわかりやすく説明できるように表現方法を工夫させます。

-  児童生徒が相手にわかりやすく説明するための手法を、各教科等の特質に応じて身に付けさせることが大切です。

よくわかってもら
うためには…?



【チェックポイント】

- 論理的に考え、根拠をもって書くように支援した
- 各教科等の特質に応じた表現方法を用い、わかりやすく説明できるように支援した


具体物を操作しなが
ら説明しようかな。



課題解明のための視点②

「自分の考えを振り返り、対話的な深い学びとするために」

対話的な深い学びのために、少人数の話し合いの場を設定します。


-  話し合いの内容を把握し支援しながら、全体での学びの場にどうつなげていくか見通しを持つことが大切です。

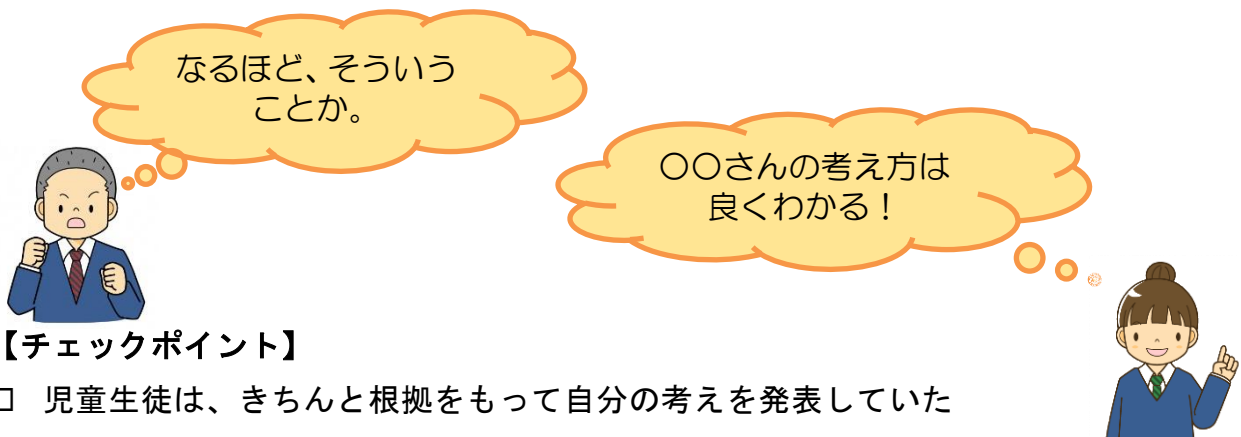


【チェックポイント】

- 話し合う前に、話し合いの課題、どこまで話し合えばよいかを明確に伝えた
- 一方が話すだけ、聞くだけにならないように、児童生徒全員が自分の考えを持って話し合いに参加していた
- わからないことがあった場合は、児童生徒同士質問をし合っていた
- 話し合いのリーダー(司会)が、話し合いを課題解決に向けて進行していた

より良い考えへと高めていく全体での学びの場を設定します。

-  集団で学ぶ良さや、学びの深まりを実感させることが大切です。




【チェックポイント】

- 児童生徒は、きちんと根拠をもって自分の考えを発表していた
- より多くの児童生徒が参加できるように発表のさせ方を工夫した
- それぞれの発表について、観点を持って結び付けたり、考えを練り上げ、より高めたりした
- 黒板やICT機器を活用して、児童生徒の考えをまとめ、可視化した

課題解明のための視点③

「指導と評価の一体化を図るために」

本時の授業でできるようになったことを確かめ、学んだことが他の問題や生活の場で活用できる良さを実感させます。

 学んだことを定着させたり、活用したりできるような場を設定することが大切です。

自力できるかな、
やってみよう。




この問題も、同じ様に
考えるとできそう！



【チェックポイント】

- 練習だけでなく、学んだことを活用できるような場を設定した
- 児童生徒は、対話的な学びを通して理解したことを確実に定着させていた
- 児童生徒は、学んだことを活用して新しい課題・発展問題等を解決していた

学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりできるようにします。

 学習したことを振り返り、対話的な学び・学んだことを活用できる良さを実感させることが大切です。

今日の授業で〇〇
がわかった！



今度、〇〇について
も調べてみたい！



【チェックポイント】

- 最初に持った見通しに戻って、振り返るように工夫した
- 振り返りを自分の言葉で記述できるような時間を確保した
- 児童生徒はわかったこと・できるようになったことだけでなく、学んだ過程での気付き・わかったきっかけなども記述していた
- 児童生徒は自分の成長や対話を通して学んだことや理解の深まったことを記述していた
- 児童生徒は新たな疑問を持ち、課題意識へとつなげていた